

令和5年度 第22回「郷地区 白山市ミライ会議」概要

日 時：令和5年11月7日（火） 19：30～20：30

場 所：郷公民館

参加団体等：各町子ども会代表、各町婦人会会長、公民館運営審議会、郷青年団郷スポーツ協会、郷ボランティア会、交通安全協会郷支部、防犯協会郷支部、東大寺横江荘荘園まつり実行委員会、郷地区社会福祉協議会町会連合会理事、各町内会長、公民館長など

発言【1】

市において、東大寺領横江荘遺跡保存活用計画書が作成されており、2024年から中期計画となる予定になっている。経過観察と、年度ごとに評価し、報告書を作成するとなっているが、現段階では進捗が進んでいないように感じられる。ガイダンス施設の建設に1日でも早く着手してほしい。

【市】

白山手取川ジオパークにおいても、東大寺領横江荘遺跡は重要なポイントだと思っています。本年度は、これまでの発掘調査で成果の不足していた箇所において、史跡公園として整備に反映させるための調査を実施しています。当初計画より遅延していますが、整備を進めるように努めます。

なお、ガイダンス施設の建設は史跡公園整備後の建設になります。

発言【2】

郷公民館は、市内28公民館の中で、5番目に古い建物で、そろそろ建て替えの準備に入る時期かと考えている。現在の敷地は狭く、今の敷地だけではこの場所での建て替えは非常に困難な状況だ。公民館の隣の郷こども園が、番匠町地区区画整理内に移転すると聞いており、公民館の建て替えには、現在のこども園の用地が必要だと考えている。こども園が移転した後の土地の先行取得に配慮いただけないか。

【市】

旧耐震基準の公民館について、まず整備を完了させたいと思います。新耐震基準の公民館については、旧耐震基準の公民館の整備を終えた後、改修・改築を順次検討してまいります。こども園の用地については、検討していきたいと思ます。

発言【3】

(1) 白山市の人口動態について、転入者が増えているが、転出者も増えている。転出の理由の内訳は何か。

また、出生率の部分で、結婚する人の人数はどのように推移しているのか。婚姻数が未来の肝となる部分だと考えている。

(2) 住宅取得補助金制度で新築・購入とあるが、購入は中古物件なのか。

(3) 大学進学で県外に出た子どもたちや優秀な人材が、白山市で暮らしたい、戻って働きたいと思えるような企業の誘致や環境づくりして欲しい。転出したくなくなる戻ってきたくなくなるような市の未来を作って欲しい。

【市】

(1) 人口動態については、転出者に対して、仕事や高等教育をはじめ、家庭の事情などデリケートな部分もあるため、理由を尋ねるアンケートを取ることは困難です。転入者の場合も、定住促進事業の助成金や奨励金の申請者に対してのみ制度を知ったきっかけなどの簡単なアンケートを実施しています。

また、白山市の婚姻数は過去5年間で減少傾向にありますが、生活の多様化の中で、婚姻を結ばないケースもあることから、婚姻数の減少は、出生率減少におけるいくつかの要因の一つであると考えます。

今後とも仕事と家庭が両立できる環境整備や子育てに対する負担軽減など、安心して子どもを産み育てやすい環境づくりに取り組んでまいります。

【参考】（婚姻数）

年度	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
婚姻件数	432	402	372	329	354

(2) 中古住宅購入事業補助金は令和4年度で終了しております。空き家バンクに登録した物件を購入した際には、空き家改修補助金があります。現在の制度は新築物件のみになり、若者・子育て世帯定住奨励金、三世代ファミリー同居奨励金、白山ろく地域定住奨励金があります。

(3) 市では、未来に明るい、夢と希望あふれる、「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」を実現するための施策を市民協働で行っております。市外からの移住を促し、今お住まいの方には長く定住していただけるような施策に取り組んでいます。

学生に対しては、年に1度、大学院・大学・短大・専修大学生等を対象に企業説明会（合同就職説明会）を実施しており、市内の多くの企業と出会い、魅力を知っていただき、今後の就職活動に役立てていただく事を目的として実施しております。

発言【4】

小学生保護者が月2回程度、子どもたちの見守り活動を行っている。他のエリアでは、ボランティアの方々が、見守りのサポートをしていると聞く。イオンモール白山ができ、交通量が増え状況が変わってきているので、市からの力添えやボランティア、それが難しければ雇用という形でも、サポートして欲しい。

【市】

地域の子どもたちのために活動を継続していただいております。大変感謝しています。通学路における登下校の見守り活動は、地域の有志の方々の自主性・自発性を尊重して進めております。これから地域コミュニティの活動を進めていく中で、地域の課題をどうしていくか、そのコミュニティの中で考えていただきたいと思えます。

新たな雇用による見守り人員の配置は考えていませんが、知らない人からの声かけなどの不審者対策として、青少年育成センターの指導員による青パトを載せた毎日の巡回など、子どもたちに被害が出ないように対策を継続していきます。

発言【5】

郷公民館では、地区の活性化事業として、地区住民の全員参加で、「大凧づくり」に20年以上取り組んでいる。地域コミュニティセンター化になった時点で、市からの予算の使い方で、要件が変わると聞いている。今までと同じような使い方をできるように柔軟に対応いただけると有難い。

【市】

令和6年度からの（仮称）地域コミュニティ推進交付金は、現在地域コミュニティ組織に交付している地域コミュニティ活動支援補助金に加え、市内全公民館に交付している公民館活動事業、公民館運営審議委員報酬及びスポーツ課の「うぐいす運動」を合算した相当額に、さらに人口割を加算した額を各地域コミュニティ組織への交付上限額になることを考えています。交付金の使途は、各組織の裁量で決めることができる自由度の高いものになります。

発言【6】

田中町バス停は、雨・雪がしのげるようになっていない。バス停に屋根付きの囲いをつけてもらいたい。

【市】

バス停の上屋等については、バス待ち環境の向上を図るためには大切ですが、設置には道路関係法令や道路構造基準等の要件をクリアする必要がある等課題が多く、また設置と維持管理には多大な費用が必要となります。路線バスの「田中町」バス停の所管は北鉄バス株式会社であることから、今回のご提案についてお伝えしたところ、会社の方針において上屋付きバス停の新設は考えていないとのことでした。市ではバス停に上屋等の整備に係る補助制度を設けておらず、現状では町内会において良好な場所を選定していただき、地元負担で設置をお願いしているところになります。

なお、市学校教育課では、スクールバス利用者の児童が待合時に風雨等を避けるためのスクールバス待合所整備に要する経費に対し、予算の範囲内において事業を行う者に補助金を交付しています。補助率については、補助事業に要する経費のうち、2分の1に相当する額とし、30万円を上限としています。

発言【7】

高齢者が、自動車の免許を返納した後、移動する手段がない。乗り合いタクシーみたいなものを設けてもらえないか。

【市】

市では高齢者運転免許自主返納支援事業として、満65歳以上で有効期限内のすべての運転免許証を自主返納された市民の方は、①市コミュニティバスの回数券(20,000円分)②西日本旅客鉄道株式会社が発行するIC乗車券(ICOCA)(19,500円分)③北陸鉄道株式会社が発行するIC乗車券(ICa)(19,500円分)④石川県タクシー協会が発行するタクシー共通乗車券(20,000円分)のいずれかを選択でき、また満70歳以上の市民及び満65歳以上の運転免許証を自主返納した市民は、申請により市コミュニティバスが無料になります。

乗合タクシーは、交通空白地において、タクシー事業者が自治体と連携して提供する乗合の運送サービスで、地域のニーズに応じて多様な形態で運行するものであり、県内他市町では路線バスの廃止に合わせて導入が見られています。予約に応じて車両を配車し、最短距離で目的地へ向かう運行方式であれば、利用者のメリットは大きいですが、一般的に利用には個人情報への事前登録が必要であることや運賃は1回300～500円程度となること、また乗車可能人数がバスより少ないため、利用者が増えれば目的地までの到着に時間がかかる等のデメリットが考えられます。

なお、お住いの地区においては、路線バスやコミュニティバスと競合することから、今のところ乗合タクシーの導入は考えておりません。

また、ライドシェアについては、運転者個人が自家用車を用いて他人を有償で運送し、運転者と乗客とをスマートフォンのアプリ等で仲介するものであり、タクシー営業所がない地域においては移動制約者の支援につながるものの、運行の安全確保、利用者保護等の観点から、日本では、ライドシェアは原則認められてきませんでした。

最近では、導入に向けた議論が活発化していることから、国や他市町の動向を注視してまいりたいと思います。